

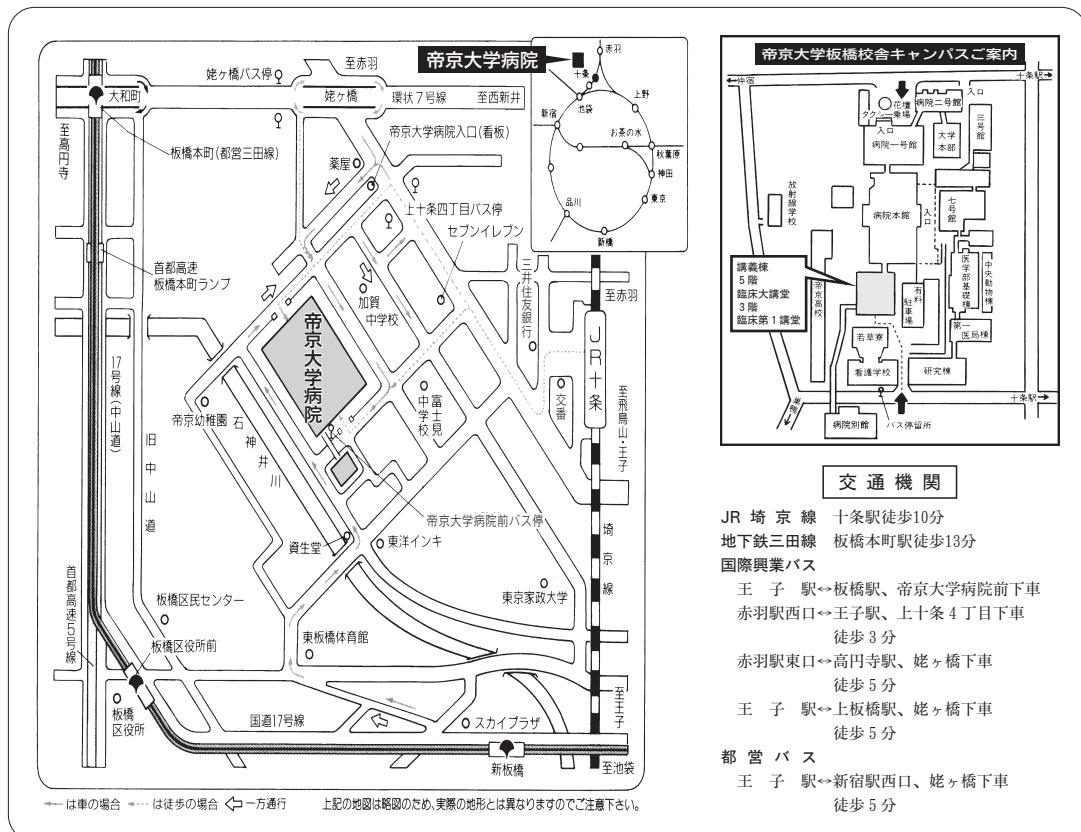
第 546 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 平成19年3月10日(土)午後2時00分

場 所 帝京大学講義棟臨床大講堂(5階)



演題の申し込みについて

- 講話会の当日、文書で提出、もしくは e-mail で事務局宛送ってください。
- 抄録(160字以内)をおつけください。
- 原則として指定発言をつけてください。
- 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

田角 勝
03(3784)8565
FAX 03(3784)8362

会場係
中村 明夫
03(3964)1211 内線1481

事務局
直通(FAX) 03(3579)8212
e-mail: pedi@med.teikyo-u.ac.jp
03(5388)7007
e-mail: jps-tokyo@umin.ac.jp

第 546 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 3分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:40

座長 水野 克己 (昭和大学小児科)

1) 緊急開頭血腫除去術を行った新生児急性硬膜下血腫の 1 例

○岡野恵里香, 横井 貴之, 長島 達郎,
寺本 知史, 小林 正久, 衛藤 義勝 (東京慈恵会医科大学病院小児科)

症例は、他院産科にて、在胎 41 週 0 日、3380 g, Apgar 8/10, 吸引分娩で出生した女児。日齢 3 に哺乳不良を主訴に当院に搬送された。頭部 CT で左急性硬膜下血腫と著明な脳浮腫、テント切痕ヘルニアを認め、緊急開頭血腫除去術を施行した。頭部 MRI において左大脳半球の萎縮を認めたが、経過問題なく、日齢 40 に軽快退院となった。

2) 著明な心筋肥大を呈した高インスリン血性低糖症の超低出生体重児の 1 例

○知念 詩乃, 藤田 英寿, 金丸 浩, 牧本 優美, 細野 茂春,
鮎沢 衛, 湊 通嘉, 岡田 知雄, 原田 研介 (日本大学医学部附属板橋病院小児科)
浦上 達彦 (駿河台日本大学病院小児科)

在胎週数 30 週 3 日、958 g で出生した児。出生直後より難治性低血糖を認め日齢 33 に感染症で死亡した。剖検所見から nesidioblastosis による持続性高インスリン血性低血糖症と診断した。経過中、肥大型心筋症類似の心不全症状が出現した。高インスリン血症と心筋肥大の関連について考察する。

3) 大動脈離断を合併した Zellweger 症候群の 1 例

○箕輪 圭, 藤井 徹, 染谷朋之介, 田所里枝子, 荒井 康裕,
奥村 彰久, 稀代 雅彦, 清水 俊明, 山城雄一郎 (順天堂大学小児科・恩春期科)

症例は在胎 39 週、出生体重 2634 g の女児である。胎児期から脳室拡大および心奇形が疑われており、出生後大動脈離断 typeB と診断した。また、特異顔貌、角膜混濁、筋緊張低下、頭部エコーにおける上衣下囊胞を認めた。血漿中極長鎖脂肪酸の上昇、プラスマローゲン低下、培養皮膚線維芽細胞におけるペルオキシソームの欠損を認め、Zellweger 症候群と診断した。さらに遺伝子検索で病因遺伝子が PEX10 であることが判明した。

4) 睡眠時喉頭ファイバースコピーにより初めて診断し得た喉頭軟化症の 1 例

○内藤 陽子, 肥沼 悟郎, 高橋 孝雄 (慶應病院小児科)

2カ月男児。生後 1 カ月頃より入眠時の吸気性喘鳴を認める。同様の症状をみとめた兄は、生後 3 カ月時に乳幼児突然死症候群により死亡。前医の喉頭ファイバースコビーでは診断にいたらず当院へ紹介。覚醒時には喘鳴がなく、喉頭ファイバーで異常を認めず。入眠後、喘鳴が出現した時点で再検査し喉頭軟化症と診断した。断続的な喘鳴を認める場合には、症状がある状態で喉頭ファイバー検査を行うことが重要である。

第 2 グループ 14:40—15:20

座長 津田 隆 (東京慈恵会医科大学青戸病院小児科)

5) 小麦が原因の食物依存性運動誘発アナフィラキシー（FDEIA）と考えられた1例

○津村 由紀, 松永 典子, 岡田 隆文, 岡田 千晶, 朝貝 省史,
有馬ふじ代, 松原 啓太, 辻山 修, 岩田 敏,

(独立行政法人国立病院機構東京医療センター小児科)

症例は、食物による即時型アレルギー反応の既往がない13歳男児。食事摂取後2時間以内の運動負荷中にアナフィラキシーを呈して当科へ救急搬送された。同様のエピソードを繰り返していたことよりFDEIAを疑った。問診や特異的IgE抗体検査からは原因食物の推定が困難であったが、皮膚テストから小麦が原因のFDEIAと考えられた。

指定発言 明石 昌幸（国立成育医療センターアレルギー科）

6) 骨髄移植後に特発性器質化肺炎を合併したALLの2例

○下田木の実, 杉浦 弘剛, 横山 美貴,

康 勝好, 滝田 順子, 五十嵐 隆（東京大学小児科）

症例は造血幹細胞移植を施行したB precursor ALLの18歳男性と14歳女性。両者とも移植前、真菌性肺炎を合併した。移植後、ステロイド減量中に発熱、咳嗽、軽度の呼吸困難があり胸部X線上、広範な淡い斑状影を認めた。

血清学的検査、各種培養検査やBALで感染を示唆する所見がなく、ステロイドの增量が有効であった。稀な病態と考え呈示する。

7) 診断確定時にCRP値が1.0mg/dl未満であった重症細菌感染症の3例

○安藤 亜希, 小林さより, 仁後 綾子, 山之上 純, 絹巻 晓子,
黒澤 照喜, 小高 学, 柳原 知子, 和氣 彰子, 柳原 裕史,

松岡 典子, 小鍛治雅之, 寺川 敏郎, 横路征太郎（東京都立府中病院小児科）

細菌感染症ではCRP値の上昇がその指標として重要であるとされている。しかし、ごく稀にCRP値上昇前に急激に発症し、進行している症例がある。今回、我々は診断確定時にCRP値が1.0mg/dl未満であった重症細菌感染症の3例、うち化膿性髄膜炎2例、急性喉頭蓋炎1例を経験したので報告する。

指定発言 五十嵐 隆（東京大学小児科）

休 憩 15:20—15:30

総 会 15:30—15:40

感染症だより 15:40—15:50

座長 山本 光興（山本小児科）

谷口 清州（国立感染症研究所感染症情報センター）

教 育 講 演 15:50—16:20

座長 別所 文雄（杏林大学小児科）

児童相談所の役割と児童虐待の対応について

牧 真一（杉並児童相談所・虐待対策班担当）

児童相談所は、児童福祉法により都道府県に設置され、18歳未満の子どもに関するあらゆる問題に応じる相談機関である。スタッフの中心となる児童福祉司は、子どもの権利擁護という視点に立ち、調査、アセスメントを重ね、問題解決に向けたケースマネージメントを行っている。近年、社会問題化している児童虐待に対して、東京都では平成15年から各児童相談所に専従職員を配置し、最優先に対応している。しかし、死亡事件も含め、虐待ケースは増え続けており、早期発見と関係機関の連携、体制の強化が更に求められている。

第3グループ 16:20—17:00

座長 大友 義之（順天堂大学練馬病院小児科）

8) 横隔膜弛緩症に腎位置異常を合併した1例

○松浦 隆樹, 高木 健, 神野 聰子, 平野 大志,
青田 明子, 菊池健二郎, 赤司 賢一, 黒川 直清,
瀬尾 雅美, 宮戸 淳, 津田 隆, 白井 信男（東京慈恵会医科大学附属青戸病院小児科）
衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学附属病院小児科）
黒部 仁, 芦塚 修一, 森川 利昭（ 同 外科）

3歳4ヶ月女児。近医より肺炎の診断で当科を紹介受診した。胸部レントゲンで肺炎像、左横隔膜拳上、腸管ガス異常像を認め、CTにて左腎の拳上を認めた。横隔膜縫縮術により、患側の横隔膜の奇異性運動を制限し、肺の予備能を改善させるため、当院外科にて左側の横隔膜縫縮術を施行した。術後には術前に見られた呼吸苦の改善を認めた。

9) 再発性イレウス症状により発見された腸間膜脂肪腫の1例

○鎌田 和明, 小野 正恵, 北爪 勉, 鈴木 淳子（東京通信病院小児科）
武村 濃, 鈴木 丈夫（ 同 放射線科）
吉澤 穂治, 桑島 成央（東京慈恵会医科大学小児外科）

反復性の嘔吐・腹痛を主訴とした3歳男児。腹部腫瘍は触知できなかったが、可逆性イレウス症状を呈したことと、腹部画像診断において可動性の著明な腫瘍を認めたことから腸間膜脂肪腫を疑った。開腹術にて径約5cmの空腸腸間膜脂肪腫を摘出した。脂肪腫が幼児期の腸間膜に発生することはまれであるため、若干の文献的考察を加えて報告する。

10) 不明熱で発症し、消化器症状に乏しかったYersinia腸炎の2歳男児例

○小坂 哲也, 鹿島田健一, 松原 洋平, 高澤 啓, 若林 健二,
石橋奈保子, 宮田 理英, 和田 紀子, 神山 潤（東京北社会保険病院小児科）

発熱1日目に熱性痙攣、2日目にWBC31000, CRP8.8と炎症反応高値を認め精査を行った児。発熱以外の症状に欠き、Sepsis workup後、ABPC投与開始。翌日軽度腹痛と数回の下痢を訴え造影CTで著明な回盲部腸管浮腫、リンパ節腫脹を認めた。抗生素をPAPM BPに変更後症状は速やかに消失、便培養からはYersinia enterocoliticaが検出され同菌による腸炎と診断した。文献的考察を加え報告する。

11) 鼻出血を契機に受診し、診断に至った自己免疫性肝炎の1例

○大石 一行, 道下 崇史, 菊池絵梨子, 小野 敏明, 佐藤 裕幸,
下田 益弘, 糀 敏彦, 清原 鋼二, 岡庭真理子, 日下 隼人（武藏野赤十字病院小児科）

2歳2ヶ月女児。1歳時から続く鼻出血を主訴に近医を受診。貧血及び肝機能異常を指摘され、当科を紹介された。持続するIgG, CRPの高値を認め、肝機能障害、肝生検組織所見から自己免疫性肝炎と診断された。ステロイドパルス療法及び後療法としてステロイド内服による治療を開始した。診断に至る過程について報告する。

第4グループ 17:00—17:35

座長 糀 敏彦（武藏野赤十字病院小児科）

12) リステリア菌髄膜炎の11カ月の乳児例

○三村 成臣, 桑原健太郎, 右田 真, 福永 慶隆（日本医科大学小児科）

症例は11カ月の女児で、発熱と痙攣重積のため入院した。腰椎穿刺を行い、髄液細胞数1206/3であり、*Listeria monocytogenes*を検出した。ABPCとPAPM/BPにて治療を開始したが、再び発熱と髄液細胞数の上昇を2回認め、抗菌薬をAMK, VCM, MEPMに変更し、後遺症なく57日後に退院した。今回、元来健康であった乳児のリステリア菌髄膜炎を経験したので報告する

指定発言 五十君静信（国立医薬品食品衛生研究所）

13) 当院における小児顔面神経麻痺7例の検討

○石田 悠, 小穴 信吾, 渡邊 聖子, 佐々木 徹,
竹内 真美, 山中 岳, 宮島 祐, 星加 明徳（東京医科大学小児科）

小児における顔面神経麻痺は日々の外来でしばしば遭遇する疾患であり、原因も様々で治療方針のプロトコールが確立されていないのが現状である。今回われわれは過去5年間に東京医科大学病院に入院した小児の顔面神経麻痺7例について後方視的に原因、治療内容、経過および効果を検討し、文献的考察を行ったので報告する。

14) 1型糖尿病治療中に社会不安障害(SAD)と思われる症状を訴えた1例

○野澤 明子（板橋区医師会病院臨床研修医）
泉 裕之, 松村 昌治（ 同 小児科）
今井 直子, 吉井 美紗（ 同 小児科心理）
藤田 之彦, 大久保 修（日本大学小児科学講座）

症例は20歳、男性。8歳時から1型糖尿病のために経過をみていた。大学での授業中、人前で発表した際に失敗したことをきっかけに通学出来なくなり、視線恐怖、発汗・動悸を伴う不安症状を訴え、社会不安障害(SAD)と診断された。小児期から母親の過保護・過干渉を受け、学校で特別扱いをされてきたことなどがSAD発症の原因と思われた。1型糖尿病など慢性疾患の治療においては、心理面での配慮も重要であると考える。

運営委員会だより

- 1月の講話会参加者156名、新入会13名（会員数1,808名）、ベビーシッタールーム利用者2名。
- 追加討論を2分から3分以内に延長しましたので活発な意見交換をお願いいたします。
- 地方会ホームページを開設にあたり運営委員の中から担当者を選出いたしました。
- 次回（3月10日）の教育講演の演題は“児童相談所の役割と児童虐待の対応について”です。来年度からは、5月“思春期の子どもの性的発達”，6月“思春期の子どもの妊娠”，7月“思春期の子どもの性感染症”的予定です。
- 5月、地方会講話会総会を開催いたします。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。登録事項変更届出用紙をご送付いたします。
- 退会される場合も必ずご連絡ください。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

経皮吸収型・気管支拡張剤

指定医薬品、処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること
セキナリン[®]テープ
SEKINARIN[®] TAPE



ツロブテロール経皮吸収型製剤

- 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

資料請求先

発売元 和光堂株式会社

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造販売元



ジェイドルフ製薬株式会社

〒528-0211 滋賀県甲賀市土山町北土山2739

06.07

Computer Presentationについて

Computer Projectionによる発表を受け付けます。ただしWindowsのみで下記要領でお願いいたします。Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願いいたします。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。(原稿は活字もしくはワープロ文字で)

Computer Presentationをお願いします。